

# NEWS RELEASE

報道関係各位

2023年11月1日

## 箱根ガラスの森美術館 ミュージアム・ショップ館 展示即売 **Neo Japanesque** ～今再び、世界に誇る日本の伝統工芸ガラスたち～を開催します

箱根ガラスの森美術館（神奈川県箱根町）は、ただいまミュージアム・ショップ館にて、展示即売「Neo Japanesque（ネオ ジャパネスク）～今再び、世界に誇る日本の伝統工芸ガラスたち～」を開催しています（2024年3月31日まで）。



中世ヴェネチアが育み、門外不出の技法として守り続けたガラス工芸が、その栄華の終焉と共にヨーロッパ各地に広がり、100年以上の時を経て日本に渡来したのは江戸時代後期。以後、技術の向上と日本独自の繊細な美学によって研ぎ澄まされ、独自の文化を体現した日本のガラス工芸品が生まれました。

1996（平成8）年の開館以来ヴェネチアン・グラスを中心に世界の名だたるガラス芸術を紹介してきた箱根ガラスの森美術館が、厳選した価値ある日本の伝統工芸ガラスをお届けします。

展示即売「Neo Japanesque～今再び、世界に誇る日本の伝統工芸ガラスたち～」

会期：開催中～2024年3月31日（日）〔予定〕

会場：箱根ガラスの森美術館 ミュージアム・ショップ館内

### ◆販売商品について



#### ●廣田硝子（ひろたがらす）

1899年創業した東京で最古の硝子メーカー。創業より社に伝わる貴重なデザイン資料を元に手仕事による伝統的製造を継承し、西洋ガラスと日本の美意識を融合した独自の手作り和硝子を守り続けています。



#### ●太武朗工房（たぶろうこうぼう）

「日本とヨーロッパの技術や感性の融合」を掲げ1989創業。伝統的な江戸切子の熟練した職人の手による正統派江戸切子と現代感覚を取り入れた切子の製作などを通じ、「ガラスのある暮らし」の素晴らしさを追求しています。



### ●KAGAMI (カガミクリスタル)

1934年各務鑛三により日本初のクリスタルガラス専門工場として東京に創立。各務鑛三の残した「もの創りの心」を継承し、熟練した職人の手による高い技術と独創的なデザインで、極めて繊細なクリスタルガラスを作り続けています。



●美の匠 ガラス工房 弟子丸 (びのたくみ がらすこうばう でしまる)  
新しい薩摩切子の可能性を求め、伝統をふまえつつも従来の枠に捉われない作品づくりを目指し、2011年に工房を設立。途絶えた薩摩切子の復刻に携わり伝統技を極めた切子師による「薩摩切子」と、新解釈を加味した「霧島切子」を製作しています。

#### ◆江戸切子と薩摩切子について

1834(天保5)年江戸大伝馬町のガラス職人、加賀谷久兵衛が透明なガラスに金剛砂で彫刻を施したのが切子の始まりと言われている。その後、島津藩主斉彬が加賀谷久兵衛を薩摩に招聘し、透明ガラスに色ガラスを被せたグラスをカットして作る切子の原型が生まれた。明治時代に西洋からクリスタルガラスが伝わり、現在の江戸切子、薩摩切子が完成した。

**江戸切子**：透明ガラスの外側に色ガラスを被せたガラスの表面に幾何学模様を鋭角に彫刻したガラス。ガラス素材は、クリスタルガラスとソーダガラスの二種類がある。

**薩摩切子**：クリスタルの色ガラスの内側に透明のクリスタルガラスを流し込んだ被せガラスに幾何学模様を彫刻。口元は透明ガラスの面が出ている。色ガラス部分には厚みがあり、「ぼかし」といわれる技法が施される。

\*江戸切子はグラインダーを使用するので細く鋭角に彫刻されるが、薩摩切子はホイールで彫刻するので、線が太くなり、その切り口を更に薄く削ってぼかしをいれることが出来る。

#### ◆箱根ガラスの森美術館について

東京・神奈川を中心にレストランを展開するうかいグループの美術館。1996(平成8)年8月開館。うかいの創業者・鵜飼貞男が蒐集したヴェネチアン・グラスを中心に展覧会を開催している。館内には、5千種類10万点のガラス製品を扱う「ミュージアム・ショップ館」とうかいグループ総料理長が監修するカフェ・レストラン「カフェテラツツアうかい」を併設。



<お問い合わせ>

箱根ガラスの森美術館 ☎0460-86-3111 ミュージアム・ショップ館 担当：府川・諏訪部

〒250-0631 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原 940-48 E-mail : hakone-shop@ukai.co.jp

公式HP ◆ [www.hakone-garasunomori.jp](http://www.hakone-garasunomori.jp)